

新規の場合

様式 1

該当するもの以外は二重線で消してください
(新規作成の場合は変更・廃止の両方を削除)

オキシダントに係る緊急時の措置実施計画 ~~(変更・廃止)~~ 届出書

該当する環境管理事務所名を記載してください
(管轄はパンフレットを参照してください)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

(あて先)

埼玉県〇〇環境管理事務所長

提出日を記載してください

届出者

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂 3-15-1

〇〇産業株式会社

代表取締役 埼玉太郎

電 話 048-***-****

F A X 048-***-****

埼玉県大気汚染緊急時対策要綱第7第2項の規定により、オキシダントに係る
緊急時の措置の実施計画を作成 ~~(変更・廃止)~~ したので、次のとおり届け出ます。

該当するもの以外は二重線で消してください

工場又は事業場の名称	〇〇産業株式会社 ◇◇工場
工場又は事業場の所在地	〒***-*** 〇〇市△△1-1-1
緊急時の電話番号	048-***-****
緊急時のFAX番号	048-***-****
緊急時の措置実施計画	別紙のとおり

届出の対象となる工場又は事業場の名称を記載してください

備考1 緊急時の電話番号及びFAX番号は、緊急時の発令又は解除を行った時に、必要な措置を講ずるよう協力を求め、若しくは命令等を行う場合に使用する。

2 廃止に当たっては、「緊急時の措置実施計画」の欄の「別紙のとおり」を削除し、当該計画を廃止した旨を記載すること。

別紙

緊急時の措置実施計画

【平均削減率について】

①ばい煙発生施設のバーナーの燃料の燃焼能力（重油換算ℓ/h）の合計が事業所単位で1,000ℓ/h 以上となるばい煙発生施設を設置している事業者

…注意報発令の際に通常の燃料使用量の20%程度の削減を、警報・重大緊急報の際に40%程度の削減を求めます。

②ばい煙発生施設のバーナーの燃料の燃焼能力（重油換算ℓ/h）の合計が事業所単位で500ℓ/h 以上1,000ℓ/h 未満の事業者

…警報・重大緊急報の際に通常の燃料使用量の20%程度の削減を求めます。

ばい煙発生施設の種類			ボイラー	加熱炉	平均削減率 (%)
バーナーの燃料の燃焼能力(ℓ/h)			900	500	
A 夏期1時間当たりの通常燃料使用量(ℓ/h)			800	400	
B 削減に準ずる措置	内容	A重油・低NO _x バーナー	A重油		
	みなし削減率(%)	40	20		
緊急時におけるばい煙削減計画	予報時	C 燃料使用量(ℓ/h)	800	400	
		削減率(%)=100-(100-B)×C÷A	40	20	
	注意報時	C 燃料使用量(ℓ/h)	800	400	
		削減率(%)=100-(100-B)×C÷A	40	20	33
	警報時	C 燃料使用量(ℓ/h)	600	400	
		削減率(%)=100-(100-B)×C÷A	55	20	43
	重大緊急報時	C 燃料使用量(ℓ/h)	600	400	
		削減率(%)=100-(100-B)×C÷A	55	20	43
参 考 事 項			※平均削減率の計算方法 施設ごとに算出した「A(夏期1時間当たりの通常燃料使用量)×削減率÷100」のA(夏期1時間当たりの通常燃料使用量)の合計で除し、100を掛けることで求めます。		

- 備考1 計画は、ばい煙発生施設ごとに記入する。ただし、ばい煙発生施設が多数にあり、この用紙に書ききれない場合は、合計だけを記入し、明細を別紙としてもよい。
- 2 要綱別表4中の重油換算は、重油10ℓ当たりが液体燃料は10ℓに、ガス燃料は16m³に、固体燃料は16kgにそれぞれ相当するものとして本計画に記載すること。
- 3 要綱別表7中の燃料使用量の削減に準ずる措置を行う場合は、その措置の内容を各相当欄に記載すること。また、窒素成分の少ない燃料への転換と窒素酸化物の排出量の少ない燃焼方法への転換を併用する場合にあっては、それぞれの削減率の和をみなし削減率とする。
- 4 夏期の1時間当たりの通常燃料使用量は、4～10月の13～16時における1時間当たりの予定使用量とする。
- 5 夏期に交互使用する複数の施設である場合は、燃焼能力が大きい方の施設について記載し、交互使用する旨を参考事項に記載すること。
- 6 ボイラーについては、燃料の燃焼能力を記載すること。
- 7 削減が困難な施設は削減率の欄に「対象外」と記載し、理由を参考事項に記載すること。